

## 再生可能エネルギー用語集

### ア行

アンカー企業	地域に大きな需要を搬入し、新たな展開を生み出す、地域産業の核となる企業のこと。
EMEC	海洋エネルギーの開発等が進む欧州では、2003年、イギリス北部のオークニー諸島に、実海域で大規模な実証試験ができる欧州海洋エネルギーセンター(European Marine Energy Centre: EMEC)が建設され、各国の実証実験海域となっている。
Win-Win	交渉者がともに利得を享受できることを指す。
ウインドファーム	大型の風力発電機をたくさん並べて建築し、大規模な風力発電を行なっている場所のこと。
エコツーリズム	自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のあり方。
エネルギー基本計画	2002年6月に制定された「エネルギー政策基本法」に基づき、エネルギーの需給に関する施策の長期的、総合的かつ計画的な推進を図るために2003年10月に策定されたもの。時代に合わせるため3年ごとに検討・改定していくこととされ、2007年3月に最初の改定が、さらに2010年6月に2回目の改定が行われました。そして、震災以降の環境変化も踏まえ、2014年4月に3回目の改定が行われました。

### カ行

海洋基本計画	平成19年4月に成立した「海洋基本法」(平成19年4月法律第33号)第16条の規定に基づき、海洋に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、政府が海洋に関する基本的な計画を定めるもの。
カーボンフリー	CO <sub>2</sub> を排出する活動をした際に、そのCO <sub>2</sub> の排出量を計算し、その排出量に見合ったCO <sub>2</sub> 削減活動に投資や寄付することで、排出されたCO <sub>2</sub> を埋め合わせるという考え方。
環境アセスメント	環境影響評価のことで、主として大規模開発事業等による環境への影響を事前に調査することによって、予測、評価を行う手続きのことを指す場合が多い。
環境省	日本の中央省庁のひとつ。地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護及び整備その他の環境の保全(良好な環境の創出を含む)並びに原子力の研究、開発及び利用における安全の確保を図ることを任務とする(環境省設置法第3条)。
漁業権	一定の水面において特定の漁業を一定の期間排他的に営む権利のこと。
クリーンエネルギー自動車	石油以外の資源を燃料に使うことによって、既存のガソリンカーやディーゼルカーよりも窒素化合物、二酸化炭素などの排出量を少なくした自動車。天然ガス自動車、電気自動車、メタノール自動車、水素自動車、ガソリンカーと電気自動車を組み合わせたハイブリッド・カー、燃料電池車などがある。
コージェネレーションシステム	ガスタービンやディーゼルエンジンで発電する一方、その排出ガスの排熱を利用して給湯・空調などの熱需要をまかなう、エネルギーの効率的運用システム。
固定価格買取制度	平成24年7月より開始された「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」は、再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等)により発電された電気を、一定期間・固定価格で電力会社等が買い取ることを国が義務付けるもの。

サ行

再生可能エネルギー	太陽熱、風力、水力、波力、地熱、また、家畜の糞尿や廃木材、廃植物油等のバイオマス(有機資源)による発電等、繰り返し再生使用することが可能な自然由来のエネルギーのこと。
産業クラスター	クラスターは本来「群れ」「(ぶどうの)房」などを意味します。その名の通り「産業クラスター」は、ぶどうの房のように企業、大学、研究機関、自治体などが、地理的に集積し、相互の連携・競争を通じて新たな付加価値(イノベーション)を創出する状態のこと。
実証フィールド	実証フィールドとは、海洋エネルギー発電技術を実海域で試験するために必要な共通インフラが整った施設・海域のこと。
小水力発電	ダムのような大規模な施設を使用せず、小河川・用水路・水道施設などを利用して行う小規模な水力発電。自然環境への負荷が少ないなどの利点があります。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)では、出力が1,000~1万kW程度のものを小水力発電として分類している。
水素ステーション	燃料電池自動車の動力源である水素を、製造・供給する施設。
総合海洋政策本部	日本における政府機関のひとつ。平成19年に成立した海洋基本法に基づき、内閣総理大臣を本部長として海洋に関する施策を集中的かつ総合的に推進する機関として設置された。事務局は内閣官房。

タ行

太陽光発電	太陽光や太陽電池を用いて直接的に電力に変換する発電方式。
地熱発電	地熱(主に火山活動による)を用いて行う発電のこと。
着床式洋上風力発電	洋上風力発電の一種で、陸地に近い比較的遠浅の海岸あるいは港湾などで風力発電プラントを建設する工法(プラントの基礎を海底に固定して建設するやり方)。
潮流発電	潮流のエネルギーを利用した発電です。海峡など潮の流れの速い海域に設置した水車を潮流で回転させて発電機を動かし電気をつくります。海洋エネルギー発電の一つ。
電力系統	電力を需要家の受電設備に供給するための、発電・変電・送電・配電を統合したシステム。
電力ピーク対策	最も電気を使う時間帯の電力(ピーク使用量)が、発電量の限度を超えないように、ピークの時間帯に集中して電気をなるべく使わないようにする対策のこと。例えば電気をたくさん使う工場などの操業時間を、平日の昼間から休日や夜間に変更する(ピークシフト)のもそのひとつ。またオフィスで、冷房温度を上げて電気の使用量を減らす(ピークセーブ)のもそのひとつ。そして、電気以外の他エネルギーを使うことで電気の使用量を大幅に小さくする方法(ピークカット)が根本的な解決方法として着目されている。

ナ行

NEDO	「独立行政法人通則法」「独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構法」に基づいて設立された独立行政法人。
燃料電池	「水の電気分解」と逆の原理で発電するもの。水の電気分解は、水に外部からの電気を通して水素と酸素に分解するが、燃料電池は逆に、水素と酸素を化学反応させて電気を作り出す。通常の電池とは違い、水素と酸素を供給し続けることで継続的に発電し続けることができる。燃料電池は、エンジン式やタービン式のコージェネレーションシステムに比べ、家庭用向けに小型化しても効率が落ちないこと、今後の低コスト化が期待できることから、分散型電源を担っていくものとして期待されている。
燃料電池自動車	燃料電池自動車(FCV)は、燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車です。ガソリン内燃機関自動車が、ガソリンスタンドで燃料を補給するように、燃料電池自動車は水素ステーションで燃料となる水素を補給します。

ハ行

バイオマス	動植物などから生まれた生物資源の総称。
バイオマス発電	バイオマス資源を「直接燃焼」、「ガス化」するなどして発電する。技術開発が進んだ現在では、様々な生物資源が有効活用されている。
バイオマス活用推進基本計画	バイオマス活用推進基本法（平成 21 年法律第 52 号）に基づき、バイオマスの活用の促進に関する施策についての基本的な方針、国が達成すべき目標、技術の研究開発に関する事項等について定める計画。
バイナリー発電	熱水あるいは蒸気の熱を蒸発器(熱交換器)を使って、水よりも低沸点の媒体(低沸点流体)で回収し、それを沸騰させて蒸気をつくり、タービンを回して発電する方式。
BDF	バイオディーゼルフューエル(Bio Diesel Fuel : BDF)の略で、生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称であり、バイオマスエネルギーの一つ。
風力発電	風のエネルギーを電気エネルギーに変えるのが風力発電。
浮体式洋上風力発電	洋上風力発電の一種で、洋上に浮かんだ浮体式構造物を利用する風力発電です。日本では、初の実証試験が五島市の杵島沖で実施されている。

マ行

マルチエネルギーステーション	水素、天然ガス、電気、石油類をマルチに供給する災害対応型のガソリンスタンド。
未利用エネルギー	生活排水や中・下水、河川水や海水、変電所や工場の排熱、地下鉄や地下街の冷暖房排熱等、今まで利用されていなかったエネルギーのこと。
メタン発酵	生ごみなどの有機物を嫌気状態(酸素が無い状態)におくことで、微生物によりメタンガスを発生させるシステムのこと。

ヤ行

洋上風力発電	陸上に比べ強く安定した風が吹く海洋上での風力発電。陸上の同規模の設備よりも大きな電力が得られる。海洋底に直接設置する着床式、鎖などで固定した浮体上に設置する浮体式がある。
--------	---

ラ行

ローリング方式	現実と長期計画のズレを埋めるために、施策・事業を見直しや部分的な修正を、毎年転がすように定期的に行っていく手法。
---------	--

